

がん相談のカウントに 関するアンケート結果

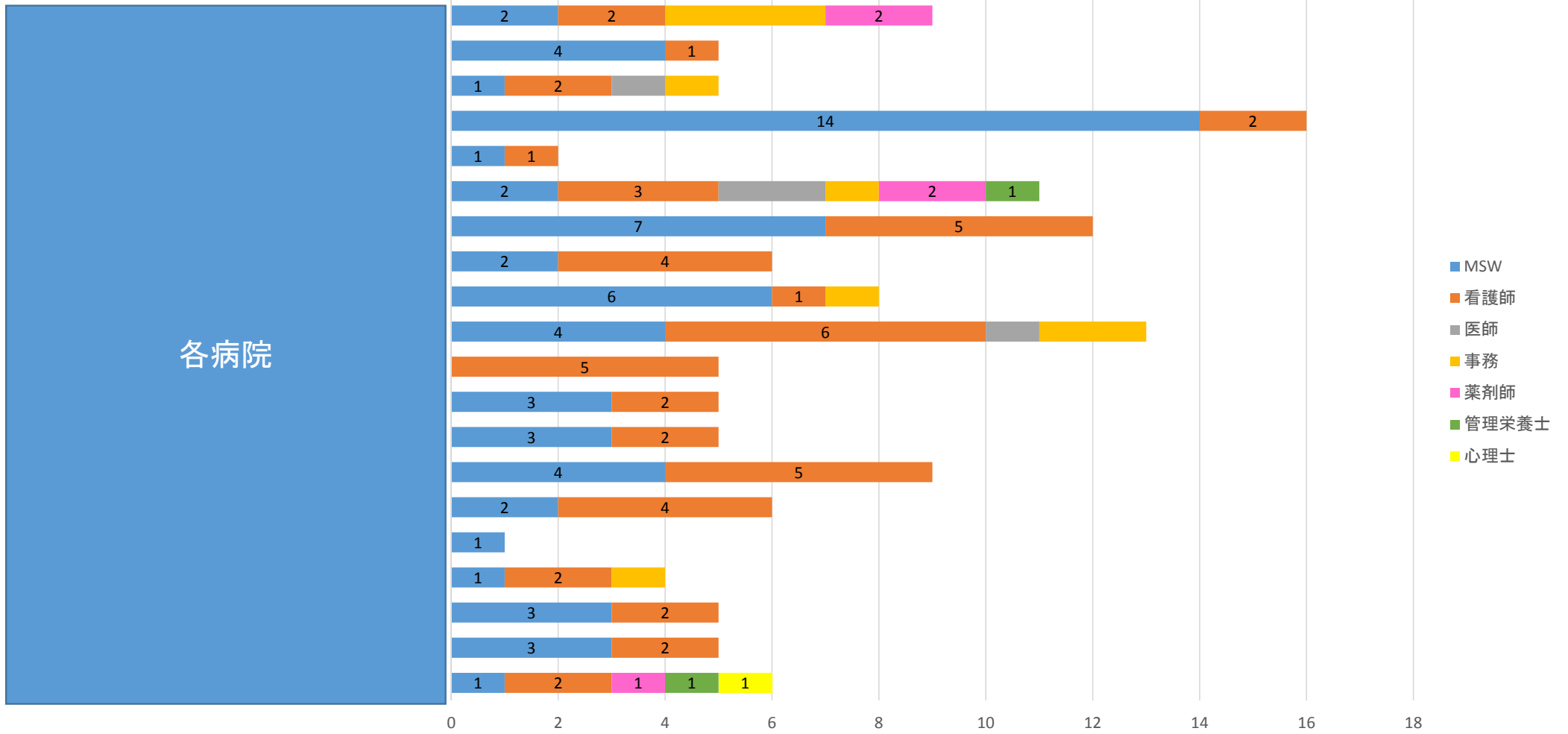
神奈川県がん診療連携拠点病院 相談支援部会
統計グループ: 大和市立病院、北里大学病院、藤沢市民病院
横浜市立みなと赤十字病院、済生会横浜市東部病院

はじめに

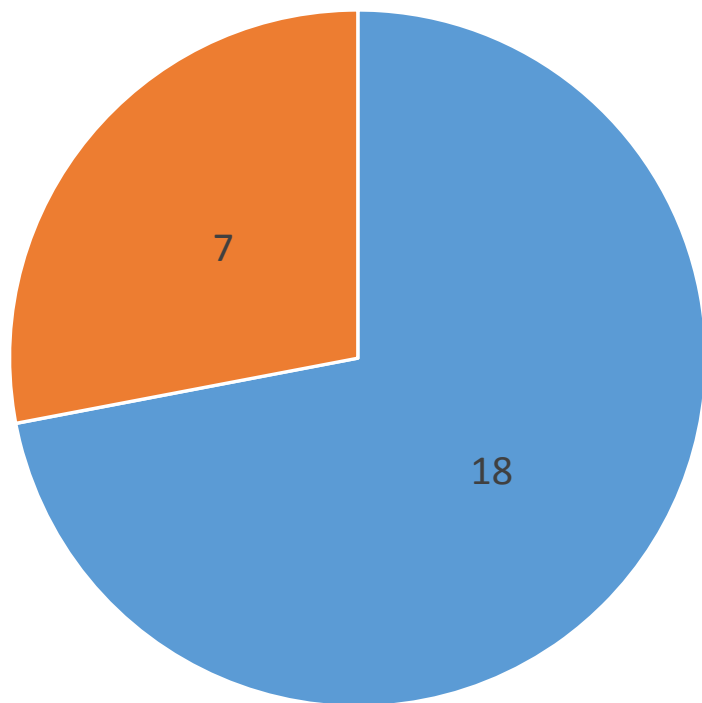
- 平成21年度の厚生労働省の通知でがん相談集計方法について連絡があったが、がん相談のカウントについては施設により数え方に相違がある
- 示してる数の意味が違うと他にはわかりにくく、比較もできない
- どのようにがん相談の統計をとるかに悩んでいる施設の声もある

⇒がん相談の統計を検討していくうえでの基礎資料としたい（アンケート回答 20/23施設, 87%）

がん相談支援センターの職種と人数

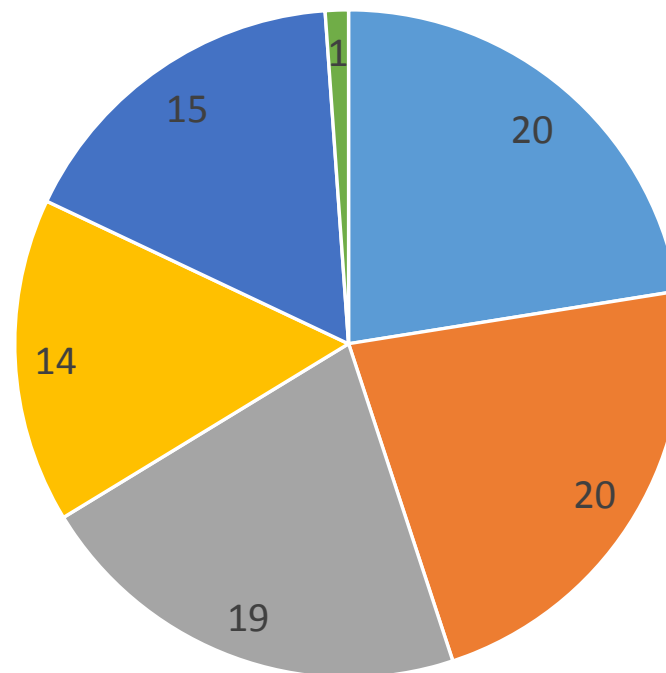


誰が受けている相談をがん相談とカウントしていますか
(重複可)



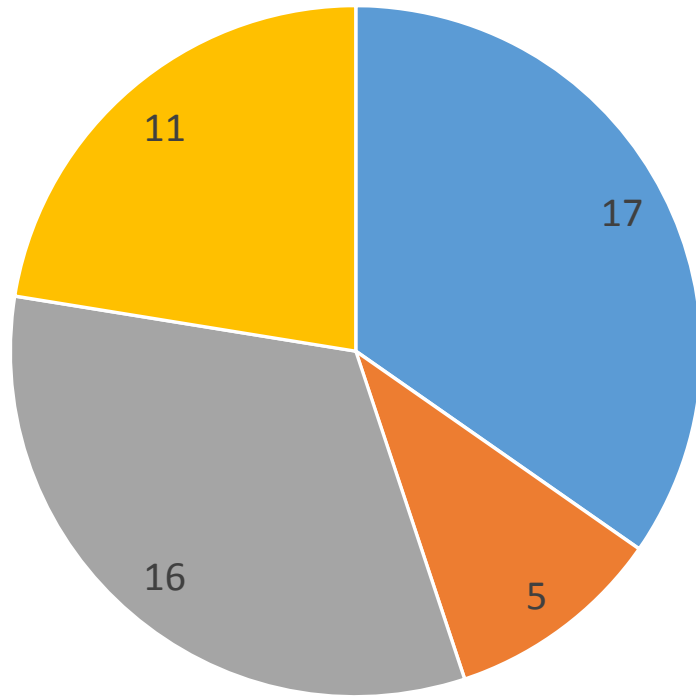
- がん相談支援センターのメンバー
- がん相談支援センターメンバー以外

誰からの相談をがん相談とカウントしていますか
(重複可)



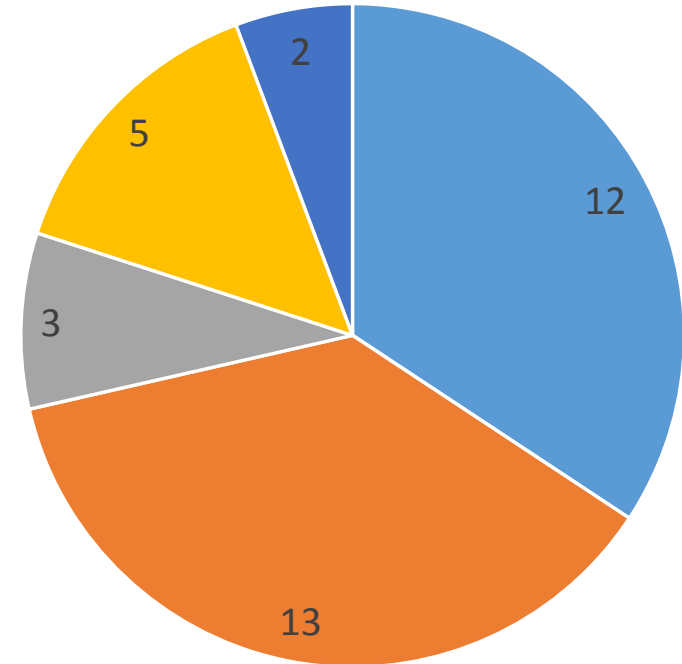
- 自施設に受診しているがん患者や家族
- 他施設に受診しているがん患者や家族
- 未受診の市民
- 自施設の他部門からの相談
- 他施設の職員からの相談
- その他

がん相談としてカウントしているもの
(重複可)



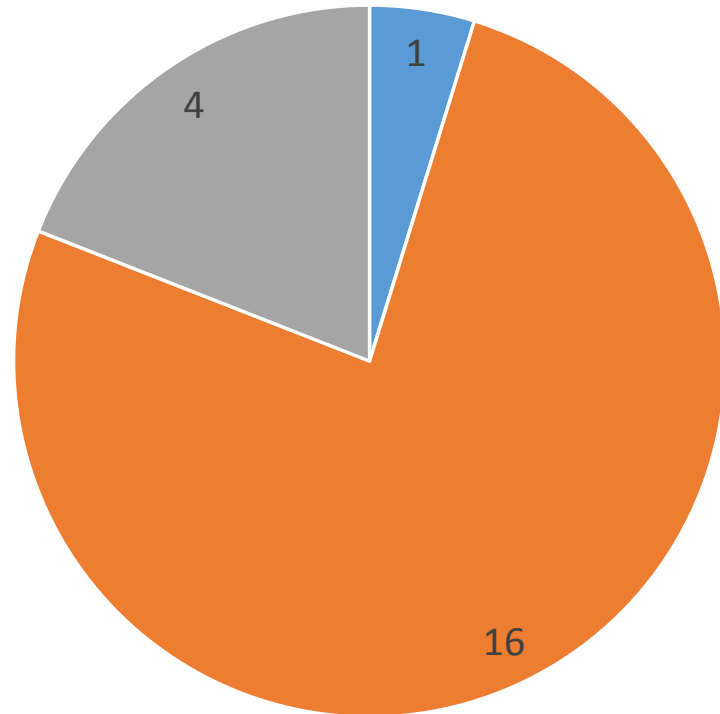
- がん患者の転院退院支援
- がん地域連携パスに関する相談
- 緩和ケア病棟への入院等に関する相談
- 苦情に関する相談

がん相談の数え方
(重複可)



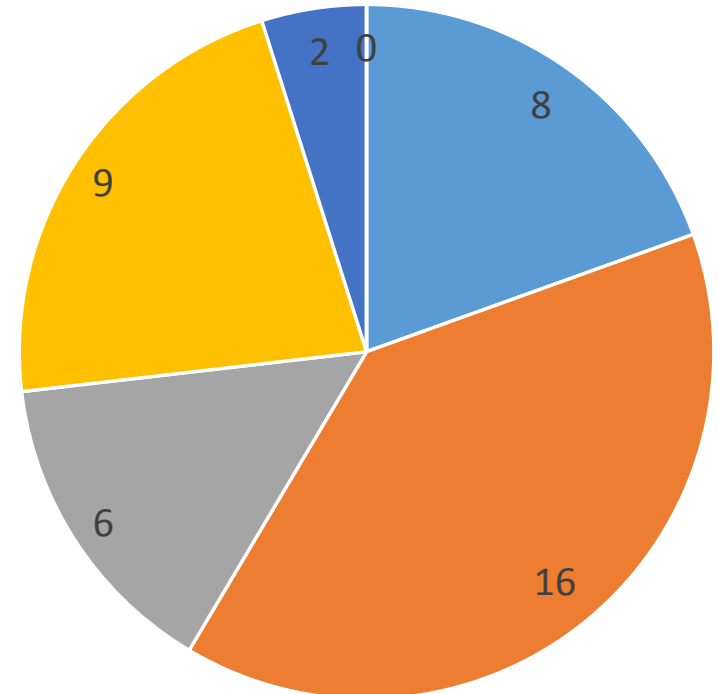
- 1患者1カウント(実数)
- 1患者1日1カウント
- アクション数(他施設への電話や記録等)
- 相談内容ごと1カウント(同日内でも)
- その他

がん相談の数え方は職種によって違うか
(重複で選択1施設あり)



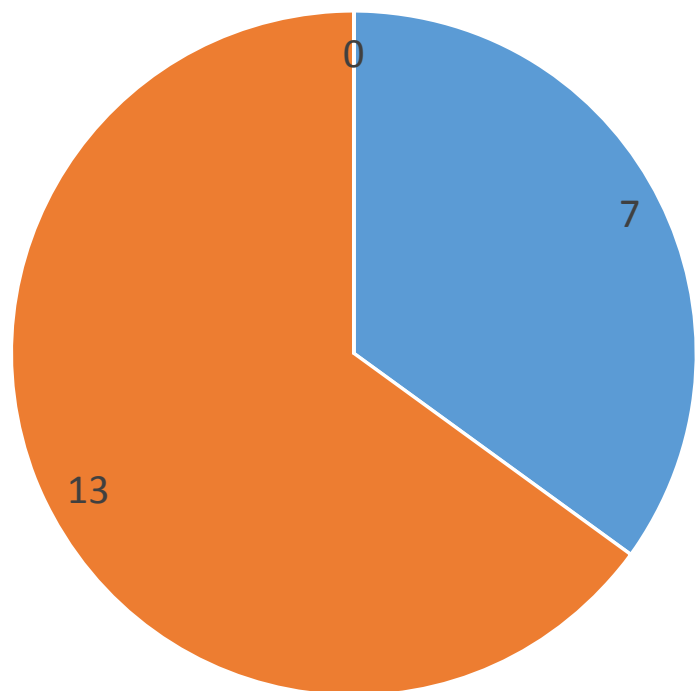
- 職種によって違う方法
- 同じ方法
- 1部は同じで1部は違う方法

がん相談の統計は主にどのようなことに利用しているか
(2つまで記入)



- 自分たちの業務量の把握や組織へのアピール
- がん相談の利用者数の把握
- 相談として求められていることを知る、ニーズを知る
- 国への報告
- 現場をより良くしていく
- その他

神奈川県内で、がん相談の集計方法を統一した方がよいか



■ 集計のすべてを統一

■ 集計の1部を統一

■ 集計は統一しなくてもいい


- 集計方法を統一することに関しては全施設が望んでいる
- がん相談の集計に関して相談員、相談者、内容、数え方にばらつきがあった
- ばらつきの背景には、がん相談支援センターの成り立ちや組織での立ち位置に違いがあると考える
 - ⇒がん相談支援センターと他の相談窓口で対応する相談員が同じか違うか
 - ⇒相談者はがん患者だけか違うか
 - ⇒データベースがいくつもある
 - ⇒データベースごとあるいは職種によってカウント方法が違う

5施設でがん相談の集計方法を統一して調べてみました!

期間: 11月分の1か月

内容:すべての相談（転院退院支援、パス、緩和ケア病棟の入院、苦情など含む）

カウント方法: 新規実数（1患者1カウント）

結果  5施設ではデータを出すことはできた

県内で統一して集計する目的: 県内のがん相談をしたいと思っている人の実態を知る、年次推移で比較できる（相談内容や件数の変化）地域性の特徴を知る、後方への糸口にする、相談支援センターの質向上を図る など

現在のデータベースから共通して抽出できる最低限の項目

- ①実数（新規 1患者1カウント）
- ②延べ数（1患者1日1カウント）

他の集計内容については使用目的によって違うので今後検討が必要